

YMCA News

12



『人生をゲームに例えるのなら』



「親ガチャ」という言葉をよく耳にするようになりました。どんな親の元に生まれるかは誰にも選べないことをゲームで例えたものです。

私たちは、親だけでなく、生まれる国や環境、持って生まれた資質や容姿についても自ら選ぶことはできません。事故に遭いたくて遭うわけではないように、病気や障害もなりたくてなるわけではありません。それなのに、人生の様々な選択肢が狭められ、個人や家族が苦勞を強いられています。

ゲームなら、強いキャラやアイテムを引き当てていなくても、育成が進んでいなくても、イベントをクリアできる方法を多くの人たちが模索して情報提供してくれています。知恵や工夫を見て欲しいだけかもしれませんが、結果的に多くの人がゲームを楽しめるようになっていきます。

現実の世界でも、自分がすんなりできることにつまずく人に対して、苦勞を強いる前に、何をどうすればできるようになるのか、より多くの人に考えてもらいたいです。

車椅子の人のために作られたスロープが他の病気や怪我の人、妊婦や赤ちゃん連れの人にも歩きやすいように、視力低下や視覚障害のために作られたユニバーサルデザインフォントが一般の人にも読みやすいように、困っている人の声を拾うことで他の多くの人の役に立っているものはたくさんあります。

知恵や工夫でクリアすることをズルいとせず応援するようになれば、誰もがより生きやすい社会になるのではないのでしょうか。

認定NPO法人accommon 理事長
 成田 礎野美

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

10月 ちきゅうと、あそぼう。 活動報告

15 秋の豊かさも
ちきゅう



10月31日(日)、子どもたち31名、リーダー15名で盛岡市外山森林公園に行ってきました。外山森林公園はちょうど紅葉シーズンで、辺り一面にはたくさんの落ち葉が落ちていました。今回の野外活動は、「焼き芋つくって、森のハロウィンパーティー♪」ということで、皆で焼き芋作りをしました。一つ一つ新聞紙とアルミホイルで包む作業をしたのですが、変わった形のさつまいもを電話機に見立ててふざけてみたり、まるで隕石のような見た目をしたさつまいもを手にして爆笑していたりと焼き芋作りを楽しんでいました。

焼き芋作りが終わるとさつまいもを焼くための落ち葉集めゲームをしたのですが、これがまた大盛り上がり!他のグループに負けまいと、年齢関係無く必死に落ち葉集めをしていました。お昼を食べ終え、しばらくして焼き芋ができ、待望の焼き芋タイム。熱々の甘い焼き芋を皆で食べました。



数に限りのある焼き芋もあっという間に無くなってしまったもの子どもたちはもっと食べたいと話していました。午後の自由時間、広い公園の中、リーダーとアスレチックで遊んだり、広場でサッカーをしたり、大きな池の中に何かがあるのでは?とちょっとした冒険を試みたりとそれぞれが色々な遊びをしました。秋の大自然を満喫した一日でした。

岩手大学3年 小河原悠加(ぶんちんリーダー)

11月 サンデースクール 活動報告

4 質の高い教育を
みんなに



11月サンデースクールでは、仙北地区活動センターでクリスマスオーナメント作りを行い、リーダー13名・子ども16名が参加しました。松ぼっくりを飾ったミニチュアのツリーや型紙に毛糸を巻いて作るオーナメント、木の枝を使ったリースを、子どもたちひとりひとりがアイデアを凝らし、夢中になって制作していました。松ぼっくりにたくさんの綿をくっつけ、オリジナリティあふれる作品を作っていた子や、持参した装飾品を使ってまるで雪をまとった枝で作ったように見えるリースなど、子どもたちの個性あふれる素敵な作品が数多く誕生しました。

今回の活動では、これまで子どもたちとリーダー数人ずつで構成していたグループを解体し、より多くのリーダーと子どもたちが交流を持つ機会を増やしました。



リーダーは子どもたちを惹きつけられるように頑張ることができましたし、グループは無くとも同じ作品を作っている子どもたち同士で自然と近くに集まり、



互いの作品の良いところを感じ合いながら活動ができていました。次回のサンデースクールは2月になりますが、今回得たものを活かしてまた良い活動を作っていきたいです。

岩手大学3年 星野太志(ゲンリーダー)

Amazon future engineer(AFE)in宮古 活動報告

4 質の高い教育を
みんなに



11月13日、14日に宮古市でプログラミング体験会を行いました。当日は、小学5年生から中学2年生の8名の子どもたちと10名のリーダーが参加しました。この体験会は、りんりんリーダーとこんぶリーダーの地元である、宮古市の子どもたちが、プログラミングに触れ、面白さを知り、将来への視野を広げるきっかけを作りたいという思いから企画しました。今回の体験会は2度目の開催であった為、前回の反省を踏まえながら、教え方やゲーム、席の配置な



ど、当日に向けてたくさんの準備をして臨みました。体験会では、プログラミングの基礎を学び、オリジナルのホームページを制作します。

参加した子どもたちは、写真の大きさやフォントにこだわりながら、自分の好きなゲームやアニメの紹介など、世界に一つだけの素敵なホームページを制作していました。そして、体験会の中では、ゲームをしたり、みんなで昼食をとったりする時間もありました。初めは緊張していた子どもたちも、徐々に緊張がほぐれ、2日間を通してとても楽しい雰囲気が進めることができました。

また、子どもたちは、普段関わることの少ない大学生との交流も



楽しんでいる様子でした。これからも、様々なイベントを通して宮古市の子ども達と交流を深めていきたいです。

村上詩織
(こんぶリーダー)



おむすびから、全国リーダー研修会についてご報告いたします。盛岡YMCAからは、ほやリーダー、うめぼしリーダー、トトロリーダー、かまぼこリーダーが参加しました。今回のリーダー研修会では、Negative capability × X = Positive Well-beingという式のXは何であるかについて考えました。4名の講師の方が様々な視点からお話をしてくださいました。

お話の中で、難しい状況でも伴走者がいることで人は強くなれることや、できないことがある時にも誰かに頼ることが大事であることを教えていただきました。また、見えない誰かの幸せを考えることが、いかに大切か考える機会になりました。グループでの話し合いでは、リーダー同士で打ち解け合い、何度も本音で話し合うことができたため、どんどん意見が深まりました。それぞれのリーダーの経験や考えが違う中で、簡単には自分たちなりの答えを導き出せませんでした。諦めずに話し合いました。

今回の研修会を通して、私たちが関わるYMCAの活動の中には、まさにXとしての役割もあることに気づかされました。Xの答えは一つというわけではありませんが、リーダー1人1人が今回考えたことを心に留め、どうやったらそれぞれの幸せに繋がるのか、自分にできることを考え行動していきます。

齋藤七穂(おむすびリーダー)



2021年 ダイナミックスキーキャンプ

15 緑の豊かさも
守ろう



みなさん、こんにちは。2021年ダイナミックスキーキャンプのメインリーダーを務めるぶんちんです。私自身、スキーが大好きなので、今回こうして久々にスキーキャンプができることを本当に嬉しく思います。

スキーというのは自分でスピードをコントロールできるようになるまでは、正直、ちょっと怖いスポーツだと思います。自分の意に反して勝手に滑り落ちていくスキー板を乗りこなすには、思い切って前のめりの体勢にならなければなりません。その壁を乗り越えるのが本当に怖いと思います。でも、思い切って自分から前に向かって行ったときの、爽快感と達成感はとても気持ちの良いものだと思います。私はこの楽しさを一人でも多くの子達と分かち合えたら良いな、と思っています。もちろん、スキー以外の生活のところでもリーダーや他のお友達との交流を通して楽しんでいきたいと思えます。

「自分の力でできた!」「他の子に応援してもらえて嬉しかった!」、そんな言葉が聞こえるようなキャンプをリーダー丸となつてつくっていきたく思います。当日は、色んな子達と出会うのを楽しみにしています!

岩手大学3年 小河原悠加(ぶんちんリーダー)

認定NPO法人 accommonのご紹介



今月の巻頭言を書いてくださいました、認定NPO法人accommonのご紹介をさせていただきます。

認定NPO法人accommon(アコモン)(岩手県盛岡市)は、発達障がい[神経発達症/神経発達障がい:ADHD、自閉スペクトラム症、限局性学習症(学習障害)など]の診断の有無を問わず、集団生活が苦手な子どもも大人も、社会の一員として充実した生活を過ごせるようになることを目指しています。

賛助会員として応援して下さる個人のみならず施設や店舗、関係団体、医療・教育・福祉機関とも協力しながら、発達障がいの子もや大人とその家族が、悩みや情報を共有し、学習や体験を重ねていける場づくりをしています。

盛岡YMCAもアコモンの運動に賛同し、賛助会員となっているほか、インターナショナル・チャリティーランの益金を利用し、今年度、発達障がいを抱えた子どものスキー教室をアコモンと協働で開催いたします。



←アコモンの活動については、
QRコードからぜひHPをご覧ください。





[ルイージ]

盛岡YMCAの音楽担当、ギター抱えていつも歌っています!岩手大学2年生のルイージです!大学では学校の先生になることを目指し、教育学部で学んでいます。特にも今は英語を専門的に学んでいるほか、国際的な文化や芸術には興味があるので、それは今後研究していくつもりでいます。趣味はギターを弾くことや歌うこと、野球、散歩など...いろんな事に楽しみを見いだしては遊んでいます(笑)。好きな食べ物はカレーライス、好きなマリオのキャラクターはノコノコです(ルイージじゃないんかーい!)

現在は金曜日のスイミングスクールと土曜日のサッカースクールにリーダーとして毎週参加しています。また、11月中旬に宮古市で行われたプログラミング体験会にも参加しました。自分は子どもたちと関わることがとても大好きで、プログラムをやったり、遊んだりしている内に、自分も夢中になってしまいます。子どもたちのひらめきや発想は常に自分の想像を超えてきて、楽しそうに目の前の遊びに夢中になっている姿やウェルネスなどで工夫しながらがんばっている姿を見ると自分も本当に幸せな気分になりますし、自分自身いつも刺激を受けています。

盛岡YMCAには、現中央センタースタッフのシュリンプからお誘いをもらって入りました。当初は子どもと遊ぶということだけでとりあえず入ってみた、というところが実際ですが、そこから子ども達との関わり、他のリーダー達との関わり、スタッフさんやワイズメンズクラブの素敵な方々との関わりを通して様々な価値観や考え方を吸収できていると思います。本当に温かい空間で、リーダーとして関わることが出来て幸せだなと思います。

今はなんだかんだ2年生が終わってしまいそうなことに衝撃を受けています。長いようで短い大学生活、失敗を恐れずもっともっと色々なことに挑戦していきたいという気持ちでいます。リーダーとしてはまだまだ半人前ですが、熱意は誰にも負けません!

佐々木碧 (岩手大教育学部2年)



(2021年11月25日現在)敬称略

●維持会員

山本常雄、古澤伸、長岡正彦、吉崎陽、光永尚生、上條直美、工藤悦子、佐藤翔、大関靖二、人見晃弘、押切梓、増田隆、一戸貞文、若井淳、高橋奈菜、伊藤眞一郎、伊藤みどり、及川茂夫、accommon、森山日菜乃、森山幹大、伊藤眞太郎、伊藤愛美、伊藤信彦、浅沼誠久、清水治彦、今野健男、武田理恵子、川坂保宏、魚住恵、魚住英昭、高橋友恵、熊谷亜希子、高瀬稔彦、田村育代、滝川佐波子、井上修三、井上優子、井上浩太郎、濱塚有史、水野暢夫、角谷普治、尾形裕一郎、菅原菜理奈、小川嘉文、小川明佑、東森聡、茶畑大地、浅沼慧、浅沼美希、武田悠、中村涉、濱塚直樹、濱塚牧人、清水好弘一、及川忠人、宮澤秋彦、中村亮介、水田賢次、松尾聡子、田村治之、名古屋恒彦、名古屋理恵



「サンタさんのおとしもの」

三浦 太郎
あすなる書房

この物語の舞台は寒い寒いクリスマス・イブの夜です。

おつかいに出た女の子はおおきな赤いてぶくろをみつけました。

女の子はすぐに「これはサンタさんのでぶくろにちがいない」、サンタさんは寒くて困っているでしょうと考え、サンタさんを探すことにしました。

ところが、どこを探せばいいのかわかりません。サンタさんは今頃、煙突から煙突へと忙しくみんなにプレゼントを届けているのでしょ。

教会の前まで来たとき、女の子は教会の塔に登れば煙突がみえるはず!と思いつきました。

塔の上から見た景色はどうだったのでしょうか。煙突にいるサンタさんを見つけられたのでしょうか...



寒くて困っているだろうとサンタさんを一生懸命に探す優しい女の子のお話ですが、この絵本の魅力を引き出しているのは、黒を背景にした美しい挿絵です。

女の子が雪が降り続く中歩いている街並みや、塔に登って見た港の風景、雪の積もったアルプス、そして煙突のある色とりどりのたくさんの家や木、電車など、見開きいっぱい美しい世界が広がります。

どのページも部屋に飾りたくなるような素敵な絵になっています。

矢巾町図書センター スタッフ 藤沢 美智子

表紙の写真から



約 4 カ月の準備を経て、プログラミング体験会が宮古で開催されました。

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。



ホームページ



facebook



instagram